

幼稚園の目的論(二)

堀 七 藏

繰返すまでもなく、幼稚園の目的は保育項目たる遊戯・唱歌・観察・談話・手技等を教授することではない。また幼稚園教育は家庭教育でもない。幼稚園令に示すが如く、幼稚園は幼児を保育して其の心身を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養し、家庭教育を補ふを以て目的とするものである。従つて家庭教育を補ふことは幼稚園の目的であるが、家庭教育即ち幼稚園保育でもなく、幼稚園保育が家庭教育に代るものでもない。家庭にはその子女を教育する獨特な長所があるが、殊に幼児教育は家庭教育によつて完うせられるものであるから勿論幼児教育の全體を幼稚園が達成することの出来ないのは明白な事實である。保姆が眞の父母でない以上、幼児の全教育を家庭に代つて行ふことは出来ないことは明白である。而して家庭は幼稚園とは大に異なる要素をもつてゐるから、幼稚園保育が家庭教育を補ふ上に重大なる使命をもつてゐる。世には家庭教育がよく行はれるから、幼稚園の保育を受けなくともよいと考へる人が少くないやうである。家庭教育が如何によく行はれるとも幼稚園保育に及ばない點が多々ある

ことを考へねばならぬ、母親が幼児の教育に全力を傾注し得る場合に於ても、尙ほ幼稚園保育を受けさせることが重要であることを認めねばならぬ。況んや母親が育児以外の家事のため、また職業のため全力を一人の幼児教育に集注することが出来ない場合には尙更幼稚園教育によつて家庭教育も補ふことが肝要である。勿論幼稚園保育を受けさせてゐるから母親は幼児の家庭教育を擧げて幼稚園に托するが如き考も不適當である。要は幼稚園の保育は家庭教育を補ふもので、家庭教育の全體ではないのである。

二

家庭教育と幼稚園保育とを比較すると三つの大きな相異點がある。何れの家庭でも同年齡の幼児が二人も三人もあるものではない。双生兒とか年兒の場合には同年齡または同年齡に近い幼児が二三人もあるが如き場合はないでもない。しかしそれは特別な場合で、普通の家庭では全くないことである。所が幼稚園は同年齡又は同年齡に近い幼児が多數ある點が第一に家庭と異なる點である。幼稚園が同年齡又は同年齡に近い幼児を收容してゐるのであるから、當然家庭と異なるべき筈である。何程の幼児を一組となすべきか、何程の幼児を一幼稚園に收容するのが適當なるかの問題は論外として、幼稚園が只一人の幼児の教育をなす家庭とは異つて、少くとも十人なり二十人なり、また三十なり四十人なりの幼児を一組として保育する點に於て幼稚園と家庭とが大に異なるのである。即ち家庭教育は只一人の幼児を對象となす個人教育であるが、幼稚園は相當數の幼児を一團として教育する所謂團體の教育である。幼児が自然

物を相手として獨り遊をなす時代がすぎ、既に遊び友達を必要となす時代に達してゐる。しかもその遊び友達は母親でも物足らず、またお婆さんや乳母や女中では勿論不満足である。幼児の遊び友達は同年齡又は同年齡に近い幼児でなくてはならぬ。幼児が眞實に大人と遊ぶことが出来ないことは恰も大人が如何に努力しても幼児と眞に遊ぶことが出来ないのと同様である。幼児は幼児同士の生活をなして眞にその生活が充實し意義あるものとなるのである。従つて家庭にある幼児は何時の間にか外にとび出し、隣近所の幼兒と遊び、遊び仲間を求めて外出することは少しく幼児の生活に注意すれば誰でも直に氣付くことである。「私の家では子供を獨り遊ばせてゐますから」といふ家庭教育を受けてゐる幼児が如何に老成じみてゐるか、ませてゐるか、また我儘であり、共同生活をなすことが出来ず、眞剣な幼兒らしき生活をなすことが出来ないかを見れば、家庭教育だけで幼兒の教育が如何に不完全なものであるか分るのである。假りに家庭教育が完全に行はれるとしても、それは恰も芋の子を洗ふに一つ／＼こすつて磨くが如きものである。母親の手で幼兒を周圍よりこすつて洗ふが如きものである。しかし幼稚園の保育は單に一つの芋の子のみを目的として教育せぬ。二十なり三十なりの芋の子を桶に入れ水を加へてかきまはす間にどの芋の子もきれいに洗はれるのが幼稚園教育である。幼稚園は二十人なり三十人なりの幼兒を一組として幼兒の生活を行はせる間に幼兒を保育してその心身を健全に發達せしめ善良なる性情を涵養すること、恰も桶で二三十個の芋の子を洗ふのと甚だ類似する點がある。幼稚園は恰も芋の子を洗

ふ桶で幼児は芋の子である。而して芋の子が一定の方向に一定の速さでぐる／＼廻るためにはそれをかきまはす手なり板なりが必要なるが如く、幼稚園に於て幼児の生活が停滞することなく、樂しく善良なる方向に行はれるために保姆が必要である。しかも芋の子を洗ふ際にも尙ほ水を必要となすが如く、幼稚園に於ては保育項目により、幼児の生活を充實させ、幼児の心身を健全に發達せしめ善良なる性情を涵養するのである。即ち保育項目は幼児保育の目的ではなく、幼児保育の方便であること、恰も桶で芋の子を洗ふ際の水に相當するものである。それで幼稚園が家庭と異なる第二の點は幼稚園は言葉通り幼児の樂園で、幼児の生活をなすに十分なる設備をなし、幼児の生活が適當に行はれる場所である點である。幼稚園の設備に關しては更に論述する機會があると信ずるが、幼稚園はどこまでも幼児本位でなくてはならぬ。家庭は純然たる幼児の生活場所ではない。いろ／＼の動物の巢は専らその卵を孵化し、雛や兒を育てるものであるが、人類の生活する家庭は單に子供を育てそれに家庭教育を施す所だけではない。大人も子供も共に生活する場所であり、生活の資料を得る所となることも多いのであるから、家庭は單に幼児の生活幼児の教育だけを考量してゐる譯に行かない。その爲めに大人本位となり、幼児の生活場所として不適當なる點が少くない。しかし幼稚園はどこまでも幼児の生活本位の樂園である。若し現在の幼稚園にして幼児の生活本位でなくば、それは速に幼稚園を幼児の生活本位に改むべきものである。保姆や外來者の便宜のために幼稚園が大人本位であるならば、それは眞の幼稚園ではなく、幼児が

楽しく生活するために不便なるものは須らく取除くことが幼稚園としての使命を果す上に於て肝要である。しかし家庭では左様に行かぬ。富裕なる家庭では幼児の生活本位の場所として完全な子供部屋を設けることはこの上なきよいことに相違ないがしかしそれは凡ての家庭に要求することも出来ず、また幼児は子供部屋にのみ生活し得るものでない。家庭は大人と子供と肉親のものが生活するところに長所があり、家庭教育が幼稚園教育の遙に及ばない特長を有するのでもある。従つて家庭を純然たる幼児本位の生活場所と改むることも出来ず、またなすべきものでもない。兎に角幼稚園の家庭と異なる第二の點は幼稚園が幼児の生活本位に設備せられてゐることである。

更に家庭教育は主として母親によつて行はるべきもので、茲に家庭教育が重要な一大長所を持つてゐる。乳母や女中又は家庭教師によつて行はれる家庭教育はこれは變態で、眞の家庭教育でもなく、家庭教育としての長所も實は缺けてゐる。何れの場合に於ても家庭教育を行ふものは要するに素人であり、専門の教育者ではない。幼児の教育では専門の教育者を必要とせず、母親が最も適任であることは勿論のやうであるが、母親は何れも皆よく教育の方法を理解してゐる譯には行かぬ。また終日を擧げて幼児の教育に全力を傾注し得る人も少い。時には子女の愛におぼれて不適當なる教育を施し心身の發達を阻害するが如き結果を招致するが如き場合を生ずることさへ往々にある。況んや家庭に於ける雇人たる人々によつて眞の家庭教育が行はれる道理がない。之に反し幼稚園は教育を理解し幼児を保育する専

間的素養ある保母が幼児の教育をなす點が家庭と大に異なる所である。勿論保母は生みの親ではないから親の愛を以て多くの幼児を教育することが出来ない短所はある。また生みの母でないが爲に公平に幼児の教育を行ふことが出来ることも事實である。故に幼稚園では幼児を保育して家庭教育を補ふものである。家庭教育を家庭に代つて行ふのが幼稚園ではなく、家庭教育を補ふのが幼稚園教育の目的である。従つて幼稚園は家庭に代つて幼児を保育するのが目的でない。家庭教育を補ふのが幼稚園の目的である。それで家庭教育が十分行はれ得るとも尙ほ幼稚園教育を受けさせることは凡ての幼児に望ましいこととであり、乳母や女中で幼児を世話させて幼児を幼稚園に入れないのがよいなどと考へることは大なる誤といはねばならぬ。

三

幼稚園は幼児を保育することが目的であり、保育の目的は保育項目を授けることではなく、幼児の身心を健全に發達せしめ善良なる性情を涵養することが目的である。幼児の身體精神は發達の途中にある。生れて僅かに三四歳、將來成人するまでには尙ほ多數の年月を要するのであるが、身體精神共に幼児時代程發達の著しくそれが將來の發達の基礎をなすものである。幼児の身心を健全に發達せしめるといつても、幼児を直に大人の狀態に發達せしめることではない。幼児相當に健全に發達せしめることである。而して幼児相當な發達は自然の儘にして置いても行はれるもので、幼児の保育は不必要と考へる

のは思はざるの甚だしきものである。幼児の心身は放任して置いては本能の爲めに、また周囲の悪影響によつて不健全に發達することが多い。殊に善良なる性情は放任して幼稚園教育を旋さぬ場合に於て十分涵養出來ないことは小學校入學兒童を觀察しても驚くべきことが多いのである。身體に關する悪習慣は勿論幼児の性質にも甚だ面白からぬ悪傾向を示してゐるものが少くないことを考へるときは幼児保育の甚だ須要なことが分るのである。これを以て歐米諸國でも競つて幼稚園や保育學校を増設して凡ての幼兒を收容して保育することを教育事業としても亦社會事業としても非常に重要視してゐるのである。

日曜にあたりて遊ぶ冬至かな

虚子